

第5学年 J S Lカリキュラム社会科学学習指導案

指導者 福岡市立春吉小学校 小田潤子

1 単元名 米作りのさかんな地域

2 対象 K児

(1) 子どもの実態

- 学年：第5学年
- 出身国：日本（日本で生まれ、中国江蘇省で生活する）
- 母語：中国語
- 滞日歴：約9ヶ月

(2) 子どもの現在学習する力

〈 日本語の力 〉

児童は、昨年9月に来日。日本語が話せなかったため、初期指導をワールドルームで行った。「ひろこさんの楽しい日本語Ⅱ」の8割まで学習済みである。平仮名やカタカナはスムーズに読んだり書いたりできる。また、学習に出てきた漢字も読み書きができるようになった。日本語の学習に大変意欲的である。

① 聞く・話す力

人の話を目を見てしっかり聞くことができる。基本的な日本語を使って、友だちや教師とコミュニケーションがとれるようになった。ワールドルームでは、自分のことを伝えたいという思いが強く、進んで話してくれる。

② 読む・書く力

簡単な文章であれば、自分で読むことができる。また、短い文章(3行程度)なら、作文ができるが助詞の使い方が十分ではない。

〈 教科の知識・スキル 〉

5年生で初めて社会科の学習をするので、取り出しで指導を行っている。前大単元「日本の国土と人々の暮らし」で絵や写真、図やグラフなどの資料を活用した学習は意欲的に取り組んだ。また、地図帳の使い方も身につけ、47都道府県も6割程度覚えることができている。

(3) 単元で予想される困難さ

単元に使用されている「作付面積」「生産量」「品種」「耕地整理」「さかん」など社会科特有の学習用語や表現を理解することが困難と思われる。また、「なえ」「いね」「米」というように米作りの過程で言葉が変わることや、いねのいろいろな品種の名前についても理解するのが難しいと思われる。写真や絵、デジタル教材などを活用したり、辞書で調べさせたりして意味を理解させたい。また、いねの実物や米の袋を見せたり、米売り場を見学させるなどの在籍学級の中での調査活動を取り入れさせたい。

3 本単元の指導に当たって

(1) 本単元について

本単元は、米作りのさかんな地域の分布や、米作りに従事している人々の努力や工夫などを調べ、米作りは国民の食料を確保する上で重要な役割を果たしていることや、自然環境と深い関わりをもって営まれていることなどを考えることができるようにすることが主なねらいである。本単元は、「国土の気候や地形に特色のある暮らし」の学習の次に位置づけられている。これは、「気候や地形のちがいと暮らし」で身につけた「人々が気候や地形に合った作物を栽培している」などといった見方・考え方を米づくりの学習でも生かして進めることができる。米は、K児が生活していた中国でも主食であり、身近な作物であった。自分たちの食生活と米の関わりを見つめ直すことが容易である。また、お店の米売り場や家庭で食べている米についてなど、身のまわりを調べる調査活動を通して関心を高められる単元である。

(2) 学習指導の工夫について

- 自分たちと米との関わりを見つめ直す食事調べ
家庭の主食調べや給食の献立表をもとに、日本でも中国でも、米は自分たちにとって身近な食料であり、国民の食生活を支えるものであることに気付かせる。
- 体験的な調査活動
米袋やちらし、スーパーの米売り場で米の生産地や銘柄を調べることで、米作りのさかんな地域や品種についてなど、これからの学習に生かすことができる。
- AUカードを意識したわかりやすい発問
- 思考を助ける教材・教具
 - ・ 理解を助けるために、社会科特有の用語にふりがなをつけたり、中国語の解説を入れた教材を準備する。
 - ・ 絵や写真、統計資料、デジタル教材など情報を把握し理解を助けるための教材を準備する。
- 学習ノート（ワークシート）の工夫
 - ・ 板書と同じ形式のワークシートを準備する。

4 単元目標

(1) 教科の目標

- ・ 日本人の主食である「米」に関心をもち、その産地について進んで調べようとする。
- ・ 米作りのさかんな地域の位置や気候、土地利用などと米作りのかわり方を考えることができる。
- ・ 米作りの特色や農家の工夫や努力、農家の抱える問題などを、様々な資料を活用して調べることができる。
- ・ 日本の米作りが国民の食料確保にとって重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりがあることを理解することができる。
- ・ 地図や統計などの各種の基礎的資料を読みとる力をつける。
- ・ 既習学習や資料から読みとった情報を関連づけて考えることができる。

(2) 日本語指導の目標

- ・ 農業や米の生産に関連する言葉を知ることができる。
- ・ 資料を見て気付いたことについて、話すことができる。
- ・ 資料から読みとった情報を、比較、関係づけて考えることができる。

5 在籍学級の学習指導との関係

- ① 取り出しの時間 単元の全時間／一部取り出し（11 時間中 9 時間）
- ② 在籍学級の学習と 先行／並行／後行

6 単元計画（全 11 時間）

- ① わたしたちの食生活を調べよう・・・・・・・・・・ 1（在）
- ② 米はどんな食べものか調べよう・・・・・・・・・・ 1（取）
- ③ 米の産地を調べよう・・・・・・・・・・ 1（在）
- ④ 米作りのさかんな地域を調べよう・・・・・・・・・・ 1（本時）
- ⑤ 米作りのさかんな秋田県横手盆地はどんなところか調べよう・・・・・・・・ 1（取）
- ⑥ 米はどのように作られているのか調べよう
 米作りの 1 年を調べよう・・・・・・・・・・ 2（取）
 新しい米作りを調べよう・・・・・・・・・・ 1（取）
 安全でおいしい米をたくさんつくる工夫を調べよう・・・・・・・・ 1（取）
- ⑦ 米作りの問題とこれからの米作りについて考えよう・・・・・・・・・・ 2（取）

7 本時 平成25年6月12日(水) 5校時 ワールドルーム

8 本時の目標

(1) 教科の目標

- 日本で米作りがさかんな地域を資料から調べ、どういうところといえるか捉えることができる。
- 既習学習と比べて考え、学習課題を持つことができる。

(2) 日本語指導の目標

- 資料を読み取り、わかったことや気付いたことを答えることができる。

G… 情報処理能力(地図、年表、統計資料、絵・写真・映像を読みとる)

- ・ 生産量が多いのは、どの都道府県ですか。(G-3)
- ・ 生産量が多い県を、10探して下さい。(G-3)
- ・ これは、何の～ですか。(G-5)
- ・ この～を見て下さい。何の～ですか。(G-6)

J…情報処理 情報を分析する各種の資料を活用して分析する

- ・ ～の資料からわかったことを、発表して下さい。(J-1)
- ・ AとBを比べてみましょう。(J-3)

9 本時指導の考え方

本時は、日本で米がたくさんとれる都道府県を調べ、既習学習と比べて、わかったことや疑問から学習課題をつくる時間である。本時で調べた事実と既習内容の事実を提示し、驚きや疑問を引き出すことで、この単元をつらぬく追究意欲につながるであろうと考える。

まず、日本で米の生産量が多い都道府県上位10を資料で調べ、発表させる。そして、その10の都道府県の場所を探し白地図に色をぬらせる。その結果から「米の生産量の多い地域はどこか？」を考えさせ、日本の北の方であることに気付かせたい。そして、北の方は、気温は低いことを想起させたい。また、米の都道府県別作付け面積の資料からも日本の米作りがさかんな地域が、北の寒いところあることを確かめさせたい。

次に、既習内容である「世界のおもな米の生産国」から「米は暑いところでつくられること」を想起させる。そこで、調べた事実と既習内容の事実が違うことから疑問を持たせたい。そして学習課題へとつなげていきたい。

本時は、「資料の読み取り」や「資料から気付いたことや考えたことを発表する」という活動を中心に進める展開となるため、当然教師も、資料を読み取り、考える問いが中心になる。これはAUにある「統計資料を読みとる」(G3, 5)「資料を活用して分析する」(J1, 3)を参考に指導していきたい。活動の中で「さかん」や「作付面積」など理解が難しい用語や初めて出てきた用語については、意味を説明しながら対応していきたい。

まとめの段階では、めあてにかえって板書をふりかえり、今日学習したことを子ども自身の言葉で表現させたい。表現が難しい場合は、適宜教師が言葉を補いながら表現させていきたい。

10 準備

- 教師： 資料「米の都道府県年間生産量」、資料「米の作付面積」、資料「世界の主な米の生産国」
日本白地図、「米作りのさかんな庄内平野」写真資料

- 児童： ワークシート、色鉛筆

1 1 本時の展開

学習活動	社会科AU	指導上の留意点 ◇社会科◆日本語
ウォームアップ 0 フラッシュカードクイズをする。	クイズをした感想を話す。	◆教師が適宜質問をしながらクイズの感想を聞き出す。
1 本時のめあてをつかむ (1) 掲示資料をもとに前時の想起をする。 (2) 本時のめあてをつかむ	T～についてこの前学習しましたね。覚えていますか？ C はい、覚えています。	◇前時までの資料を掲示しておく。 ◇前時の資料「米の産地調べ」を提示し、特に米作りがさかんな地域は日本のどこかという課題意識を持たせておく。
学習のめあて 日本で、米作りのさかんな地域を調べよう。		
2 米の生産量の多い地域について調べる ① 米作りの年間生産量が30万トン以上の都道府県はどこか調べ、発表する。 ② 米の生産量が多い都道府県、上位10位を白地図に色をぬる。 ③ 米作りのさかんな地域について話し合う。	T この表は何の表ですか？(G-5) C 「米の都道府県年間生産量」です。 T (指して) ここを見て下さい。何が書いてありますか？(G-3) T 資料から、30万トンより多い都道府県を探してください。(G-5) T どんな都道府県がありましたか？多い順に10に発表してください。(G-3) C 1位は～県、2位は～県… T (白地図を指して) 米の生産量が多いのは、日本のどの地域だと思いますか？(J-3)	◆「さかん」という言葉の意味をおさえる。 ④ 米の都道府県年間生産量 ◇表の見方(題名、都道府県名や生産量)を確認する。 ◆児童からでなかったら、教師が資料の見方を教える。 ◇児童の発言に合わせて都道府県名のカードを黒板に貼って行く。 ◇上位10の都道府県の位置を児童が黒板に出て指すようにする。 ◇児童から出なかったら、「色が塗ってあるところは主に何地方か」と問いかける。また、北の地域の気候を想起させる。 ◇④「米の作付面積」や庄内平野の空中写真とも合わせて北の地域が米作りがさかんな地域としておさえる。 ⑤ 「世界の主な米の生産国」 ◇思考を逆転させ「なぜ気温の低い北にある都道府県で暖かい地方の作物である米の生産が多いのか」問題意識を持たせる。 ◇子どもから疑問がでなかったら、教師が2つの矛盾を説明する。
3 米作りについての学習課題をつくる。 ① 前時の既習内容「世界の主な米の生産国」を想起し、疑問に思ったことを発表する。 ② 疑問をもとに、米作りの学習問題をつくる。	T ～と～を比べて見ましょう？比べて疑問に思うことを話してください。(J-3) C 2つは違うので、どうしてかなあと思います。	
学習問題 どうして日本では、寒い北の地域で米作りがさかんなのだろうか		
4 今日の学習を振り返り、まとめる。	T 今日の学習をふりかえってみましょう。はじめてわかったことを発表してください。(J-5) C 今日は、～ことがわかりました。～という学習問題をつくりました。	◆日本語が十分で内場合は、教師が語彙や助詞などを補いながら表現させる。

